



【インド・ムンバイで開催された観光展 日本ブースの様子】

ヨコハマの国際事業の  
主な動きをお届けする

# YOKOHAMA INTERNATIONAL DIGEST

平成 29 年 3 月 22 日  
【発行】横浜市国際局政策総務課  
企画担当 045-671-3826  
ki-somu@city.yokohama.jp

## インド最大級の観光展にムンバイ事務所長が参加しました

2月20日～23日にムンバイで行われた日本政府観光局（JNTO）主催の日本観光PRセミナー・商談会と観光展“Outbound Travel Mart（OTM）2017”にムンバイ事務所長が参加しました。

インド旅行者との商談会では、ムンバイ事務所のデスクに約30社が訪れ、いくつかの旅行代理店からは、顧客に横浜をPRできるよう、自社の従業員に対してプレゼンをして欲しいとの要請もありました。

観光展では、ジャパンパビリオンの一員として参加し、ブースに来た旅行代理店からは、日本観光全般に関する問合せ（費用、シーズン、富士山への行き方等）が主にありましたが、横浜観光についても積極的にPRしました。

これまで、インド人にとって観光地としての日本はあまり知られていませんでしたが、新しい旅行先として少しずつ注目されるようになってきました。今後もこうした観光イベントを積極的に活用し横浜の魅力を発信していくことで、観光スポットとしての認知度を高めていきます。

## フィリピン・イロイロ市コミュニティ防災推進事業5年間の成果を報告しました

2012年から取り組んできたJICA草の根技術協力事業が終了することから、3月3日に現地にて最終事業報告会を行いました。イロイロ市は、これまでの横浜市の防災分野での支援に対する感謝とともに、今後も防災力向上への取組を継続していく決意を示しました。

また、本事業の中で横浜からイロイロ市に寄贈した中古救急車両の操作方法について、本市消防職員2名がイロイロ市救急隊に対して研修を行いました。

このほか、道路局、経済局協力のもと、昨年12月に市内企業の（株）ユニメーションシステムの河川警報装置が現地に設置されました。この装置は川の水位が急上昇した際に音や光で近隣住民に周知し、避難を呼びかけるものです。



（救急車の操作方法についての研修）

## デリー・ムンバイ産業大動脈開発会社が市内インフラ施設を視察しました

経済成長が目覚ましいインドの都市開発においても、横浜の持続可能なまちづくりが注目されています。

3月7日に、デリー・ムンバイ産業大動脈開発会社の一行が、本市の資源循環局金沢工場とみなとみらい21熱供給（株）第二プラントを視察しました。

金沢工場では、廃棄物処理行政についての説明に続き、当工場の建設に携わったJFEエンジニアリング（株）から焼却炉についての紹介がありました。また、みなとみらい21地区では、道路の地下空間を有効活用した共同溝についての解説と、みなとみらい21熱供給（株）からは地域冷暖房システムについて説明がありました。



（廃棄物処理についての説明の様子）